



発行所 十勝毎日新聞社 千080 帯広市東1条南8丁目 電話=編集@2121、広告@2323、総務・販売@2222 ©十勝毎日新聞社 1987

十勝と宇宙開発

講演会から

②

北海道そして十勝と宇宙には北海道、十勝がいい。開墾を要する場所、そこには知っている人のおちおち50%はここが適地と想っている。一つの方程式がある。何となく、金が必要。はたして、人間的な物、金が必要。はたして、人間が宇宙で本格的な生活出来るのかという問題が場所と教育訓練の問題が忘れられがちだ。宇宙開発について、真に人間が生き、働く、地球ではまず教育にはよく食べられ、よく眠り、よく訓練の場、産業を開発する、よく出す(排泄)して、よくまなものをうけることが必要。それが出来なければ、それがなければ宇宙へ行長続きはしない。そして環境をつくることもまた一つの。そして、それらをつくる技術と考えるのだ。

元内閣宇宙開発委員会専門委員 松田 源彦氏

飛行士養成が急務

飛行士養成が急務。では、ここからはパイロットを見ながら説明したい。画面を指して、これは米国の宇宙ステーションに取り付けられる日本の実験モジュールについて、科学技術庁開発局が出した公表済みの製作スケッチ。既に基本設計、開発試験が始まっており、一九九三年にはスペースステーションに運搬、翌年には打ち上げられるとされている。すると、もう十数年も経たない。もう少し早く搭乗員の募集も始まる。十勝と関係ないが、少なくとも現場の打ち上げ施設は、



ところが、乗せる人をどうするか。現在、日本には北海道出身の毛利衛と三浦の宇宙飛行士がいるが、それだけでは足りない。少なくとも今後毎年三、四人は養成していかなければ宇宙ステーションには間に合わない。訓練設備や、大学院生を呼ぶような研究施設が必要となるのは自明の理だ。ちなみに、この研究施設は、十勝と関係ないが、少なくとも現場の打ち上げ施設は、

まず教育訓練の場を

50%の人「十勝が適地」

宇宙環境で一番問題になるのは、二百三十七日間飛んだ記録があるが、その後(体が)と、人間の体は神経、消化器系、血液の機能、循環器系、骨の系統などがみなバラバラに適合、あるいは適応していき、調節範囲内だと適応していく。調節範囲内だと適応していくが、それを遊脱すれば病気になる。乱れる。ここで問題になるのが、ただでさえ毎日一ダのカルシウムが大、小便となって排泄されていく。食った物を腸が吸収しなくなり、骨はホロホロになって折れていく。残念ながら、その対策は今のところないようだ。今、

では、三百三十七日間飛んだ記録があるが、その後(体が)と、人間の体は神経、消化器系、血液の機能、循環器系、骨の系統などがみなバラバラに適合、あるいは適応していき、調節範囲内だと適応していく。調節範囲内だと適応していくが、それを遊脱すれば病気になる。乱れる。ここで問題になるのが、ただでさえ毎日一ダのカルシウムが大、小便となって排泄されていく。食った物を腸が吸収しなくなり、骨はホロホロになって折れていく。残念ながら、その対策は今のところないようだ。今、

年間キャンペーン「目指せ宇宙基地」第一弾